

株式会社トプコン 2025年3月期第1四半期説明会

取締役兼専務執行役員 財務本部長
秋山 治彦

2024年7月30日



イベント概要

[企業名]	株式会社トプコン
[イベント種類]	決算説明会
[イベント名]	2025年3月期第1四半期 決算説明会
[決算期]	2025年3月期
[日程]	2024年7月30日
[時間]	15:30 – 16:20 (合計：50分、プレゼンテーション：20分、質疑応答：30分)
[開催方式]	オンライン開催（ライブ配信）
[登壇者]	2名 取締役 専務執行役員 財務本部長 秋山 治彦 執行役員 経営推進本部 副長 平山 貴昭

2025年3月期第1四半期説明会 決算ハイライト



● FY24Q1実績

連結

売上高 **514億円**
前年同期比 +3%
営業利益 **7億円**
前年同期比 ▲60%

売上高は前年並みも、減益

ポジショニング事業

売上高 前年同期比
営業利益 前年同期比

期初想定より市況悪化も、**構造改革による固定費削減効果は計画通り**

アイケア事業

売上高 前年同期比
営業利益 前年同期比

売上堅調も、成長投資にかかる費用増

● FY24通期見通し

連結

売上高 **2,300億円**
前年度比 +6%
営業利益 **180億円**
前年度比 +61%

期初計画から変更なし

ポジショニング事業

売上高 前年度比
営業利益 前年度比

戦略的新製品投入による需要喚起、**構造改革効果**による収益性向上

アイケア事業

売上高 前年度比
営業利益 前年度比

スクリーニングビジネス・新製品投入で**増収ペース加速**。投資継続も**増益見込む**

©Topcon Corporation

TOPCON 3

決算ハイライト

・ 2024年度第1四半期実績

連結：売上高は前年並みも、減益

ポジショニング事業：期初想定より市況悪化も、構造改革による固定費削減効果は計画通り。

アイケア事業：増収も、成長投資（新規事業開拓に向けた人員やR&Dの強化）にかかる費用増により減益

・ 2024年度通期見通し

連結：期初計画から変更なし。増収大幅増益を見込む

01 FY24 第1四半期決算報告

- 全社の状況
- 事業別の状況 | ポジショニング事業
- 事業別の状況 | アイケア事業

02 FY24 通期見通し

- 全社の見通し
- 事業別の見通し | ポジショニング事業
- 事業別の見通し | アイケア事業

03 トピックス

- ポジショニング事業 | 新製品投入で i-Construction の普及加速を支援
- アイケア事業 | 遠隔診療の仏スタートアップTESSANとアライアンス
- 外部評価

04 参考資料

- 業績推移
- 地域別売上高
- 設備投資・減価償却費・研究開発費/為替感应度

FY24 第1四半期決算報告

01

- 全社の状況
- 事業別の状況 | ポジショニング事業
- 事業別の状況 | アイケア事業

全社の状況



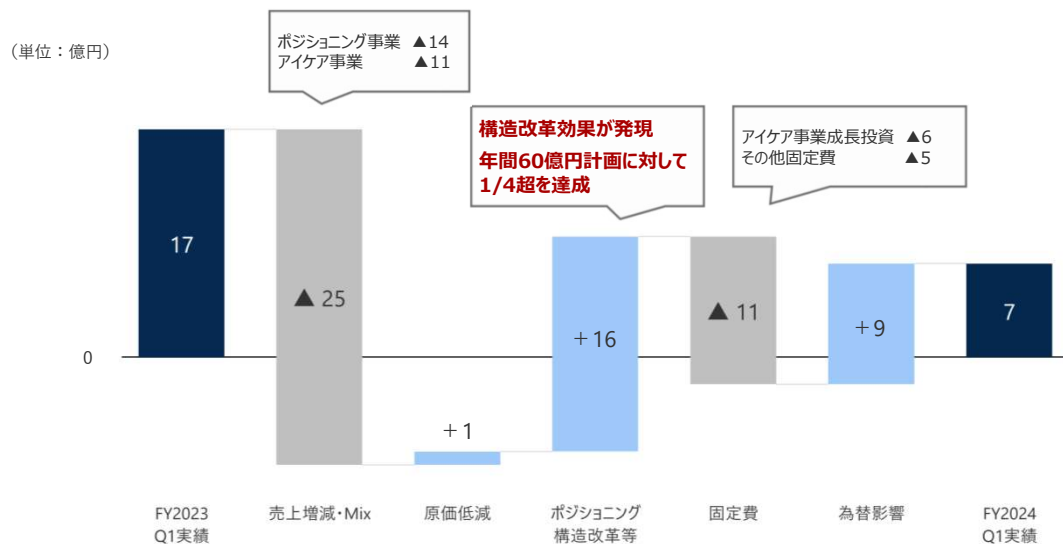
(単位：億円)	FY2023 Q1実績	FY2024 Q1実績	前年同期比	%
売上高	497	514	+17	+3
売上総利益	264	276	+12	+4
売上総利益率	53.1%	53.6%	+0.5pt	
販管費	247	269	+22	+9
営業利益	17	7	▲10	▲60
営業利益率	3.5%	1.3%	▲2.1pt	
経常利益	18	▲4	▲22	
特別損益	▲14	-	+14	
四半期純利益	▲2	▲10	▲8	
為替換算レート (期中平均)	USD	138.11円	156.53円	+18.42円
	EUR	150.35円	168.37円	+18.02円

※ 為替効果を除く
前年同期比
▲35億円

全社の状況

- ・売上高は514億円（+3%増収）も、円安による為替効果を除くと減収
- ・販管費が増加し営業利益は減益。販管費は為替の影響を除くと数億円程度の減少
- ・経常利益の減少は、為替が影響。前年同期は為替差益を計上

全社の状況 | 増減益分析 (営業利益-前年同期比較)



©Topcon Corporation

TOPCON | 7

営業利益の増減益分析

- ・ FY2023Q1実績17億円から、10億円減益の要因
 - 売上増減・Mix効果：▲25億円。このうち、ポジショニング事業が▲14億円、アイケア事業が▲11億円
 - 原価低減効果：+1億円
 - ポジショニング事業の構造改革等の効果：16億円と、計画（年間60億円）に対して1/4超を達成
 - 固定費効果：▲11億円。アイケア事業の成長投資▲6億円、その他固定費▲5億円
 - 為替影響（効果）：+9億円。円安による効果
- ・ 以上、トータルでFY2024Q1実績は7億円

事業別の状況 | ポジショニング事業



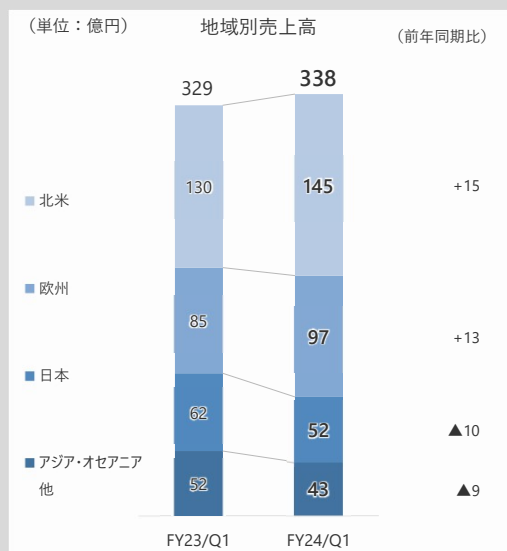
- 期初想定より市況悪化も、**構造改革による固定費削減効果は計画通り**

(単位：億円)		FY2023 Q1実績	FY2024 Q1実績	前年同期比	%
売上高		329	338	+9	+3
営業利益		18	19	+1	+6
営業利益率		5.4%	5.6%	+0.2pt	
為替換算レート (期中平均)	USD	138.11円	156.53円	+18.42円	
	EUR	150.35円	168.37円	+18.02円	

※ 為替効果を除く
前年同期比
▲27億円

ポジショニング事業の状況

- ・ 期初の想定より市況（主にIT農業関連）が悪化
- ・ 売上高は338億円と前年同期比+9億円だが、為替効果を除くと▲27億円
- ・ 構造改革による固定費削減効果は計画通りに発現し営業利益は19億円と+1億円増益



北米

- ✓ ICT施工は、市中在庫の安定化やインフラ需要等によりアフターマーケット^(※1) 中心に回復の兆し
- ✓ IT農業は、穀物価格下落による投資抑制で販売減少

欧州

- ✓ IT農業は、穀物価格下落による投資抑制で販売減少
- ✓ 買収したSatel社の新規連結^(※2) が寄与

日本

- ✓ ICT施工は杭ナビショベル中心に堅調
- ✓ IT農業は、補助金効果剥落等の影響継続
- ✓ 測量機は、市中在庫調整に伴い一時的に販売減少

※1 アフターマーケット： 建機・農機等代理店に販売

※2 Satel社： 2023年6月から連結

©Topcon Corporation

TOPCON 9

ポジショニング事業の地域別の状況

(従来、製品・ソリューションをベースに地域ごとの状況をご説明。今回から、地域軸でご説明)

- ・ 北米145億円 (前年同期比+15億円)
- ・ 欧州97億円 (前年同期比+13億円)
- ・ 日本52億円 (前年同期比▲10億円)
- ・ アジア・オセアニア他43億円 (前年同期比▲9億円)

- ・ 各地域の主な増減要因は、

北米：ICT施工は、市中在庫（代理店における在庫）の安定化やインフラ需要等によりアフターマーケットを中心に回復の兆しがみられる。一方、IT農業は、穀物価格の下落による投資抑制で販売減少

欧州：IT農業は、穀物価格の下落による投資抑制で販売減少。買収したSatel社の新規連結が寄与（2023年6月から連結）

日本：ICT施工は杭ナビショベル中心に堅調。IT農業は、補助金効果剥落等の影響が継続。測量機は、市中在庫調整に伴い一時的に販売減少

事業別の状況 | アイケア事業

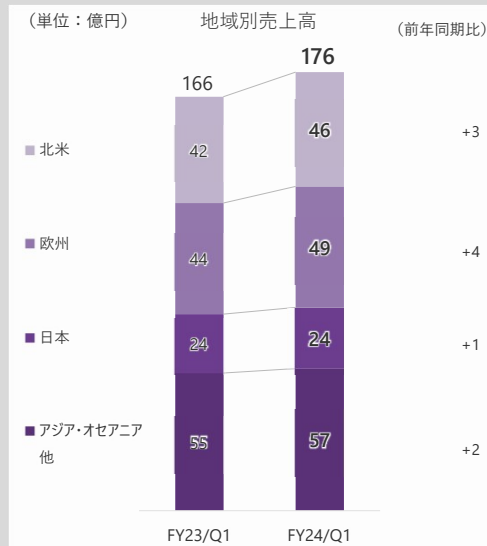


- **売上堅調**も、成長投資（新規事業開拓に向けた人員やR&Dの強化）にかかる費用増

(単位：億円)		FY2023 Q1実績	FY2024 Q1実績	前年同期比	%	※ 為替効果を除く 前年同期比 ▲6億円
売上高		166	176	+10	+6	
営業利益		11	0	▲10	-	
営業利益率		6.4%	0.1%	▲6.3pt		
為替換算レート (期中平均)	USD	138.11円	156.53円	+18.42円		
	EUR	150.35円	168.37円	+18.02円		

アイケア事業の状況

- ・売上高は176億円と前年同期比+10億円だが、為替効果を除くと▲6億円。主に中国の売上減の影響
- ・新規事業開拓に向けた人員やR&Dの強化など、成長投資にかかる費用が増加し、営業利益は0億円と▲10億円減益



北米

- ✓ 大手眼鏡チェーン店向け中心に堅調な販売が継続
- ✓ 販社組織のスリム化による業務効率化
- ✓ 販売体制・組織を再編・強化

欧州

- ✓ 大手眼鏡チェーン店向け中心に堅調な販売が継続
- ✓ 眼底カメラは大型入札獲得など販売好調

アジア・オセアニア

- ✓ 中国は地方財政逼迫や腐敗防止運動の影響で販売大幅減
- ✓ インドや東南アジアは継続的な入札案件の獲得等により販売増

©Topcon Corporation

TOPCON | 11

アイケア事業の地域別売上高の状況

(ポジショニング事業と同様、従来、製品・ソリューションをベースに地域ごとの状況をご説明。今回から、地域軸でご説明)

- ・ 北米46億円 (前年同期比+3億円)
- ・ 欧州49億円 (前年同期比+4億円)
- ・ 日本24億円 (前年同期比+1億円)
- ・ アジア・オセアニア57億円 (前年同期比+2億円)

・ 各地域の主な増減要因は、

北米：大手眼鏡チェーン店向け中心に堅調な販売が継続。販社組織のスリム化の一方で販売組織再編・強化を実施

欧州：大手眼鏡チェーン店向け中心に堅調な販売が継続。眼底カメラは大型入札獲得など販売好調

アジア・オセアニア：中国が地方財政逼迫や腐敗防止運動の影響で販売大幅減。インドや東南アジアは継続的な入札案件の獲得等により販売増

FY24 通期見通し

02

- 全社の見通し
- 事業別の見通し | ポジショニング事業
- 事業別の見通し | アイケア事業

全社の見通し



- 期初計画から変更なし

(単位：億円)	FY2023 通期実績	FY2024 通期見通し	前年度比	%
売上高	2,165	2,300	+135	+6
営業利益	112	180	+68	+61
経常利益	89	155	+66	+75
当期純利益	49	95	+46	+92
ROE	5%	9%	+4pt	
配当	42円	42円	0	0
配当性向	90%	47%	▲43pt	
為替換算レート (期中平均)	USD	144.40円	145.00円	
	EUR	156.80円	155.00円	

Q2以降前提レート

全社の見通し

- ・ 期初計画から変更なし（売上高～配当まで変更なし）
- ・ 次のページから事業別の見通しを説明

事業別の見通し | ポジショニング事業



- 戦略的新製品投入による需要喚起、構造改革効果による収益性向上

(単位：億円)		FY2023 通期実績	FY2024 通期見通し	前年度比	%
売上高		1,404	1,470	+66	+5
営業利益		91	165	+74	+81
営業利益率		6.5%	11.2%	+4.7pt	
為替換算レート (期中平均)	USD	144.40円	145.00円		
	EUR	156.80円	155.00円		

Q2以降前提レート

ポジショニング事業の見通し変更なし

- ・ Q2以降、戦略的新製品投入により需要を喚起し増収を見込む
- ・ 構造改革効果による収益性向上を見込む

事業別の見通し | アイケア事業



- 好調なスクリーニングビジネスと新製品投入で**増収ペース加速**。成長投資継続も**増益を見込む**

(単位：億円)		FY2023 通期実績	FY2024 通期見通し	前年度比	%
売上高		752	820	+68	+9
営業利益		67	75	+8	+12
営業利益率		8.9%	9.1%	+0.2pt	
為替換算レート (期中平均)	USD	144.40円	145.00円		
	EUR	156.80円	155.00円		

Q2以降前提レート

アイケア事業の見通し変更なし

- ・ 好調なスクリーニングビジネスと新製品投入で増収ペースが加速
- ・ 成長投資継続も営業利益は増益を見込むが、売上増による経費の増加を見込む

トピックス

03

- ポジショニング事業 | 新製品投入で i-Constructionの普及加速を支援
- アイケア事業 | 遠隔診療の仏スタートアップTESSANとアライアンス
- 外部評価

ポジショニング事業 | 新製品投入で i-Constructionの普及加速を支援



- i-Construction 普及のボトルネックである 3 次元データの取得と作成の内製化を支援 (※)
- 簡単操作で廉価型3Dレーザースキャナー“面トル”と3D設計データ変換ソフト“TopModeler 3D”を発売

■ i-Constructionにおける工事のプロセス



※ 従来は、一部作業を建設会社から外部の専門業者に委託

ポジショニング事業のトピックス

新製品投入で i-Constructionの普及加速を支援

- ・ i-Construction普及のボトルネックとなっていた、3次元データの取得と3次元データの作成を内製化を支援
- ・ 当社の「はかる技術」をベースにした、操作が簡単な廉価型3Dレーザースキャナー“面トル”と3D設計データ変換ソフト“TopModeler 3D”を発売
- ・ 従来、新製品を投入する3D起工測量、3D設計データ作成、3D出来形管理の各プロセスについては、外部の専門業者に委託
- ・ 工事のプロセスを当社製品で一元管理可能

03 | トピックス

アイケア事業 | 遠隔診療の仏スタートアップTESSANとアライアンス



- フランスでは眼科医不足による眼鏡処方箋発行の待ち時間が長期化
- 当社フルオート検査機器を活用した遠隔診療により効率化を推進
- 現在はフランスを中心にサービスを展開しているが、欧州各国へ展開していく

TESSANのソリューション

課題

フランスでは眼鏡購入に90日以上を要している

3~5日に短縮



従来は90日以上待って眼科医を受診し処方箋を受ける必要があったが
TESSANのサービスを利用する事で3-5日前の予約で眼鏡を購入できる

当社フルオート検査機器

検査を約10分で完了



TESSANの遠隔診療ステーションで
約10分で検査を行えるトプコンのフルオート検査機器が活躍

©Topcon Corporation

TOPCON 18

アイケア事業のトピックス

遠隔診療の仏スタートアップTESSANとアライアンス

- ・ フランスでは眼科医を受診し処方箋を受けてから眼鏡を作る。眼科医が不足しており、眼鏡の処方箋発行の待ち時間が長期化。眼鏡の購入に90日以上かかる状況
- ・ 遠隔診療スタートアップのTESSANはこの期間を短縮するソリューションを提供
- ・ 当社フルオート検査機器を活用し効率化を推進。眼鏡の購入を3~5日に短縮
- ・ 現在はフランスを中心にサービスを展開しているが、欧州各国へ展開していく

03 | トピックス 外部評価

- デジタルトランスフォーメーション及びサステナビリティに関する取り組みが評価され、「DXプラチナ企業2024-2026」、「MSCI日本株ESG セレクト・リーダーズ指数」の構成銘柄にそれぞれ選定

New 「DXプラチナ企業2024-2026」に選定



経済産業省、東京証券取引所、情報処理推進機構が選ぶ「DX銘柄2024」において、昨年のDXグランプリ受賞に続き、「DXプラチナ企業2024-2026」に選定されました。

選定条件

- 3年連続でDX銘柄に選定（2021年-2023年に達成）
- 過去にDXグランプリに選定（2023年に達成）

New MSCI日本株ESG セレクト・リーダーズ指数の構成銘柄に選定

2024 CONSTITUENT MSCI日本株
ESGセレクト・リーダーズ指数

日本の年金積立金管理運用独立行政法人(GPIF)が採用する国内株式を対象とした「MSCI 日本株 ESG セレクト・リーダーズ指数」の構成銘柄として選定されました。

- 「MSCI 日本株 ESG セレクト・リーダーズ指数」とは、米国のMSCI（モルガン・スタンレー・キャピタル・インターナショナル）社が提供するESG評価に優れた企業を選別して構築される指数
- 当社は、GPIFが採用する国内株式を対象とした右記のESG指数（※1、※2、※3）の構成銘柄として既に選定

免責事項：株式会社トプコンをMSCI インデックスに含めること、およびMSCI のロゴ、商標、サービスマーク、またはインデックス名を使用することは、MSCI またはその関連会社が株式会社トプコンを後援、承認、または宣伝することを意味するものではありません。
MSCI インデックスはMSCI の独占的財産です。MSCI ならびに MSCI インデックスの名称およびロゴはMSCI またはその関連会社の商標またはサービスマークです。

主な外部評価



※1 FTSE Blossom Japan Sector
Relative インデックス



※2 S&P/JPX
カーボン
エフィシエント
指数



※3 Morningstar
ジェンダー・ダイバーシティ指数



©Topcon Corporation

TOPCON 19

外部評価

・デジタルトランスフォーメーション及びサステナビリティに関する取り組みが評価され、今回、新たに、「DXプラチナ企業2024-2026」、「MSCI日本株ESG セレクト・リーダーズ指数」の構成銘柄にそれぞれ選定

（ご参考）

・DX銘柄：東京証券取引所に上場している企業の中から、企業価値の向上につながるDXを推進するための仕組みを社内に構築し、優れたデジタル活用の実績が表れている企業を選定することで、目標となる企業モデルを広く波及させ、経営者の意識改革を促すとともに、幅広いステークホルダーから評価を受けることで、DXの更なる促進を図るもの

DX銘柄に選定された企業は、単に優れた情報システムの導入、データの利活用をするにとどまらず、デジタル技術を前提としたビジネスモデルそのもの及び経営の変革に果敢にチャレンジし続けている企業

また、企業の競争力強化に資するDXに向けた取組を強く後押しするため、銘柄選定企業の中から“デジタル時代を先導する企業”として「DXグランプリ企業」を発表。さらに、特に傑出した取組を継続している企業を「DXプラチナ企業2024-2026」として選定

・MSCI 日本株 ESG セレクト・リーダーズ指数：米国のMSCI（モルガン・スタンレー・キャピタル・インターナショナル）社が提供するESG評価に優れた企業を選別して構築される指数。日本の年金積立金管理運用独立行政法人(GPIF)が採用する国内株式を対象とした6つのESG指数のうちの1つ



TOPCON

参考資料

04

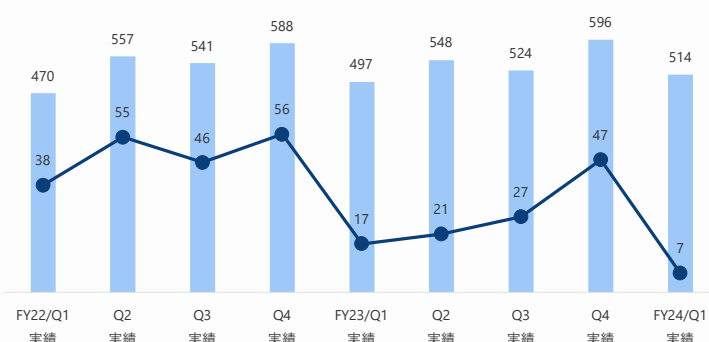
- ・業績推移
- ・地域別売上高
- ・設備投資・減価償却費・研究開発費/ 為替感応度



四半期

(単位：億円)

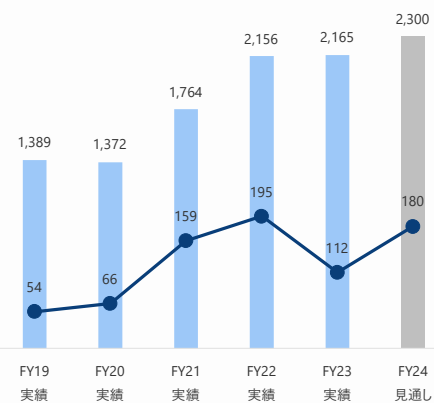
売上高 営業利益



通期

(単位：億円)

売上高 営業利益

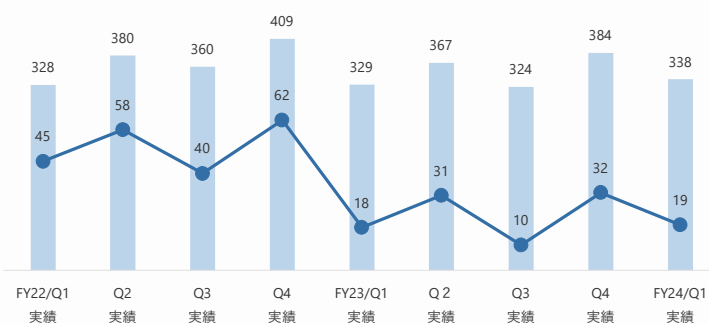




四半期

(単位：億円)

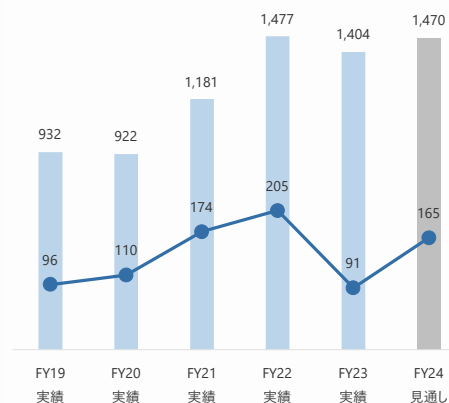
売上高 営業利益



通期

(単位：億円)

売上高 営業利益

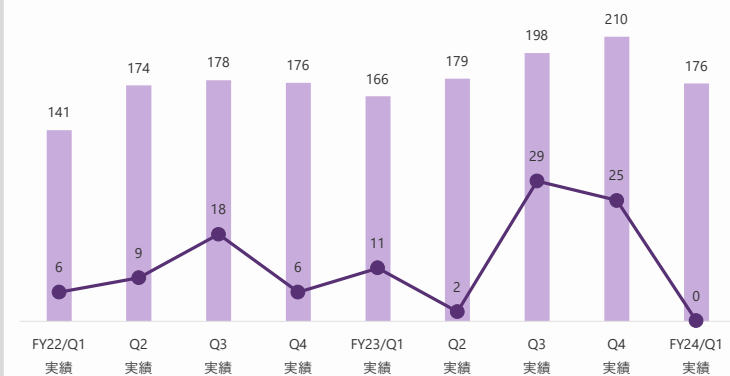




四半期

(単位：億円)

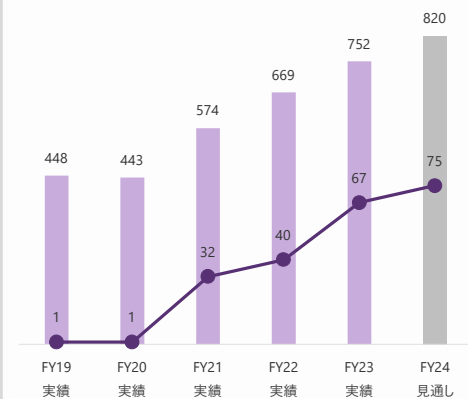
売上高 営業利益

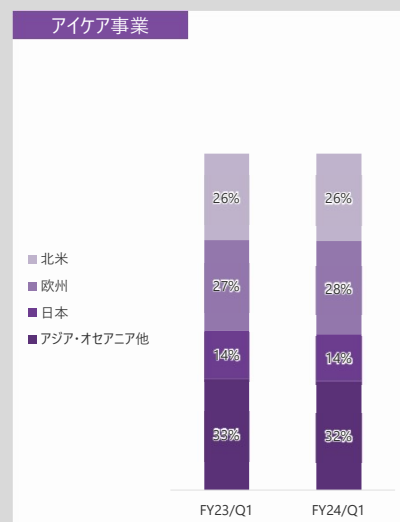
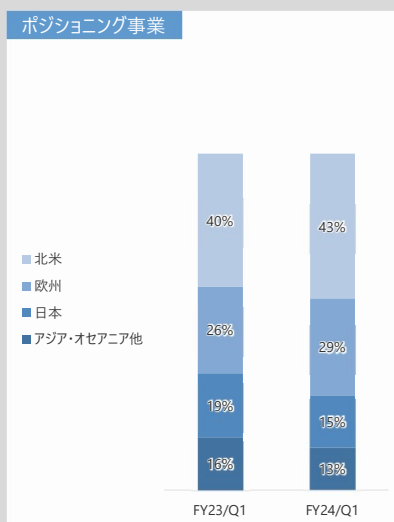
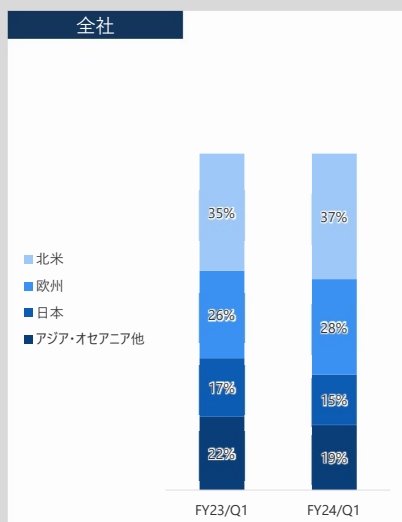


通期

(単位：億円)

売上高 営業利益



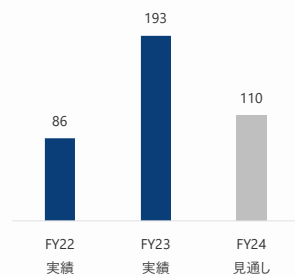


設備投資・減価償却費・研究開発費/ 為替感応度



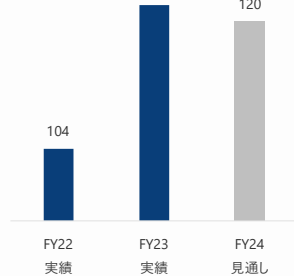
設備投資

(単位：億円)



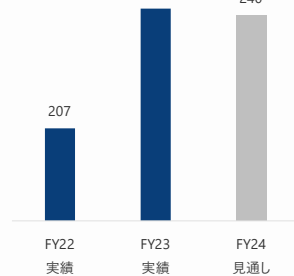
減価償却費

(単位：億円)



研究開発費

(単位：億円)



為替感応度

(1円の変動による影響額)

	営業利益
USD	1.5～2億円
EUR	0.7～1億円

免責事項

本資料に記載の業績見通し、並びに将来予測は、現在入手可能な情報に基づき、見通しのもとになる前提、予想を含んだ内容を記載しております。
実際の業績は、今後の事業領域を取りまく経済状況、市場の動向により、本資料の業績見通しとは異なる場合がございますので、ご承知おき頂きたくお願い致します。

お問合せ先	株式会社トプコン 経営推進本部 広報・IR部
TEL	: 03-3558-2532
E-mail	: investor_info@topcon.co.jp
URL	: https://www.topcon.co.jp